

単元名（教材名）

せつめいのくふうをつかって、分かりやすいせつめい書を作ろう。

（光村図書『こくご 二下 赤とんぼ』「おもちゃの作り方をせつめいしよう」）

本時の目標

語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。
〔思考力、判断力、表現力等 B書くこと(1)ウ〕

読解力向上プランVer. 2における指導のポイント

①主語と述語を明確にして説明させる。

	学習活動	指導上の工夫
導入	○「分かりやすいせつめいのしかた」を考えるとという学習の見通しをもつ。	
展開	☆「分かりやすいせつめいのしかた」を考える。	・例文を用い、順序が分かるように書いたり、「何を」「何に」「どのように」「どうする」を落とさずに書いたりすると分かりやすい文章になることを押さえる。
	○「おもちゃの作り方」を説明する文を書く。	・「分かりやすいせつめいのしかた」を意識して書かせる。
	○書いたものを友達と読み合う。	・順序や、「何を」「何に」「どのように」「どうする」のかが明確に書かれているかに着目して読み合いをさせる。
まとめ	○「分かりやすいせつめいのしかた」を意識して書けたか振り返る。	

☆板書例☆

☆分かりやすいせつめいのしかた

- ① さぎょうのじゆんじよのとおりにせつめいする。
- ② 「まず」「つぎに」「さいごに」などのじゆんじよをあらわすことばをつかって書く。
- ③ 「何を」「何に」「どのように」「どうする」をおとさずに書く。

けん玉の作り方

まず、毛糸のはしを、まっぼっくりに
 どうする
 まぎつけます。そして、とれないように、
 どのように
 きつくむすびます。
 つぎに、……

☆対話例☆

「わゴムを2本かけます」では分かりにくいかな。

「どのように」かけるのかを書くとかかりやすいんじゃないかな。



「わゴムを2本、+の形になるようかけます」としてはどう？

◇実践のポイント◇

「主語」「述語」は第1学年及び第2学年で、「修飾語」は第3学年及び第4学年で学習する内容です。これらを学習するまでは「何が」「何を」「どのように」「どうする」「どんなだ」などの表現を使い、学習後は適切に学習用語を使って折に触れて指導することで、「係り受け」を意識して話したり聞いたり、書いたり、読んだりすることにつながります。

◇活用できる教材例◇

「あそび方をせつめいしよう」東京書籍『新しい国語 二下』

「おもちゃのせつめい書を書こう」教育出版『ひろがることば 小学国語 二下』